

日米の女子大学生によるジェンダー問題と フェミニスト概念に関する認識

リリアン・アズベリ ダニエラ・ビアヌエバ
アドバイザー：齋藤-アボット佳子教授 関根繁子教授

概要

1. 研究の重要性
2. 研究質問
3. 研究背景
 - a. 「フェミニズム」の定義
 - b. 選挙権
 - c. 職場での平等権
 - d. 生殖に関する権利
4. 研究方法
6. 結論
7. 研究の限界
8. 参考文献

研究の重要性

- 私達は「ガールパワー」時代に育ち、女性はどんな事でもできるというフェミニストのアイディアに触れた。
- 日本に留学している間、アメリカ以外のフェミニストの概念に関する新しい疑問を持った。
- 日本人女性がフェミニストの概念をどのように認識しているかを知りたいと思った。
- 女性は社会でどのような問題に依然として直面しているかどうかを理解したい。

研究質問

1. 女子大生はフェミニズムについてどのように認識しているか
2. 社会で女子大生が直面する平等の問題とは何か

研究背景

- 「フェミニズム」の定義
- 選挙権
- 政府への女性議員進出
- 職場での平等権
- 生殖に関する権利

フェミニズムの定義

フェミニズムには次の3つの概念がある

1. 女性の歴史的な搾取、抑圧を認識し普及する必要性
2. すべての性別や団体の平等に向けて働きながら女性の社会的地位を向上させるという目的
3. 伝統的な知的活動とジェンダーイデオロギーの積極的な批判

フェミニズムのイメージ

ポジティブな言葉

好ましい

セクシー

強気

自主的



ネガティブな言葉

望ましくない

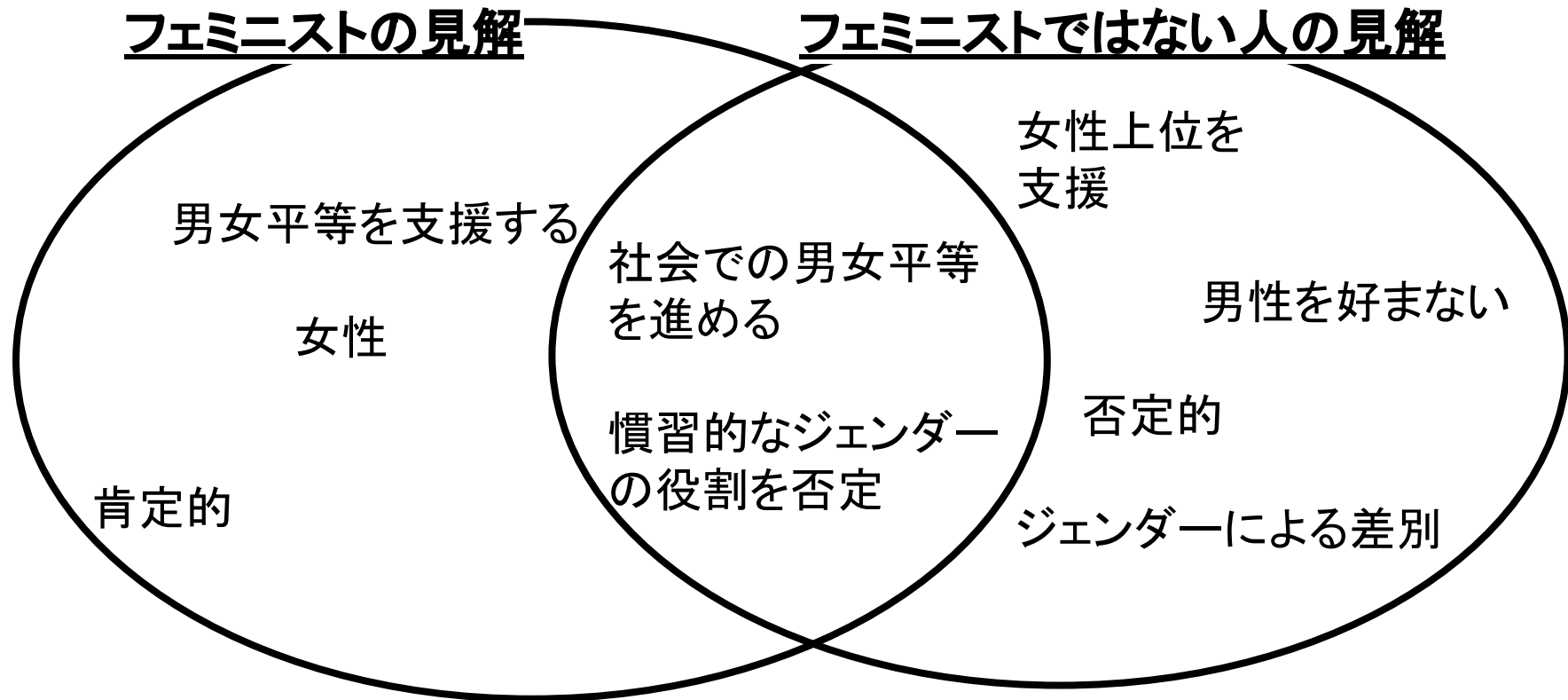
地味

頑固

怒り

人はフェミニストに関する肯定的な面、否定的な面に遭遇し、その経験から、その人の見解が形成される。

フェミニストに対する意見



女性の平等問題

教育へのアクセスの不足

服の制限

職場での平等権

家庭内暴力

性的暴行

政府への女性議員進出

妊娠中絶

生殖に関する権利

セクハラ

選挙権

- 1. 選挙権**
- 2. 政府への女性議員進出**
- 3. 職場での平等権**
- 4. 生殖に関する権利**

女性の選挙権との歴史



選挙に立候補する権利

選挙権

選挙に立つ権利& 選挙権



1788



1920

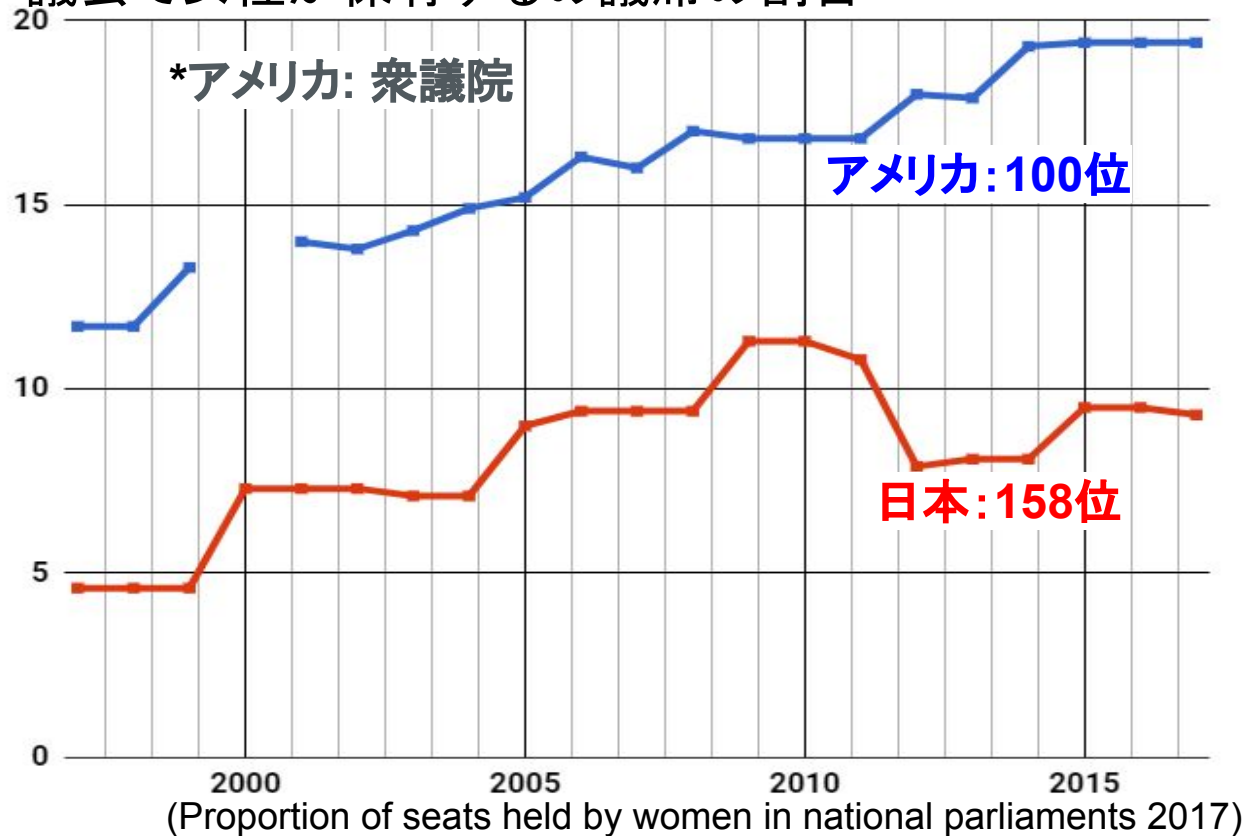


1946

女性の投票権と選挙に立候補する権利で日本はアメリカに遅れる

世界での女性国会議員割合ランキング (1990-2017)

議会で女性が保有するの議席の割合



アメリカの方が日本より女性国会議員の割合が高い。(Inter-Parliamentary Union, 2018;)

日米での女性政府代表に対す認識

女性が政治に参加すると社会にプラスの影響を与える



- ★ 女性市民の政治的関与を**刺激する**
- ★ 女性の政治的知識を増やす

(Campbell and Wolbrecht, 2006)



- ★ 男性より**道徳的**に優れていると考えられている
- ★ **社会問題**に焦点を当て改革する
- ★ 男性より**政治的**能力が不足していると見られがち

(Lee, J. & Lee, K., 2016)

日米に於ける職場での平等権



1963

平等給与法

男性と女性に平等に
給与を与えなければ
ならない



1964

タイトルVII

雇用差別を禁止
する

産休のサポート



1986

雇用機会均等法

男女差別を禁止する



2016

職場における女性の
参加と進歩の促進に
関する法律

職場での平等権

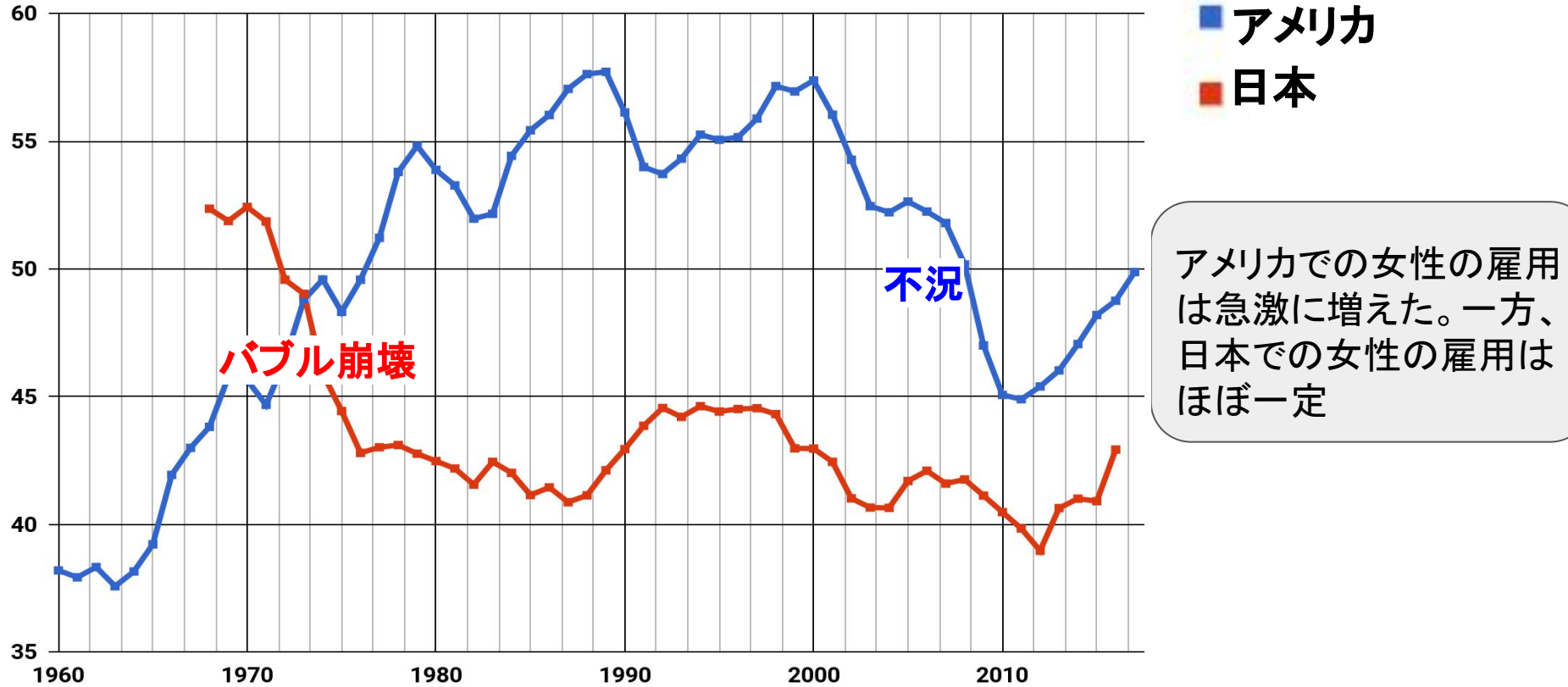
★ 次の問題の排除:

- 身長と体重の差別
- 働く母親を差別
- 女性の残業を拒否

平等法は、女性の雇用率の上昇を促進した

日米の女性の雇用率

図2: 人口に対する雇用率、年齢 15-24, 女性 (%) (全国見積もり)



アメリカでの女性の雇用は急激に増えた。一方、日本での女性の雇用はほぼ一定

生殖権利



承認された 1960

避妊ピル



承認された 1999

女性は

- 子供を産む時期を待った
- 結婚する時期を待った



- 女性の就業率の上昇
- 女性が働く年間労働時間が増えた

(Bailey, 2006)

- 就業率や出生率に影響がなかった
- 肯定的に受け入れられた
- 当時は20年代女性が最も使用
- 好意的に見られたが、その使用については躊躇した

(Kihara, 2001; Negishi, 1999)

アメリカ人女性の労働力の増加。日本の女性は、職業より個人的な健康への影響を懸念していた。

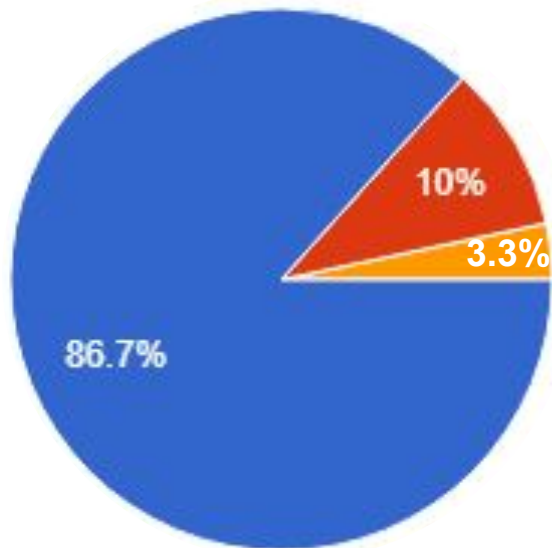
研究方法

- ★ アンケート回答者:60人
 - アメリカ女子大学生30人
 - 日本の女子大学生30人

- ★ 研究調査:
 - ゲーグルフォーム
 - 英語と日本語によるオンラインアンケート

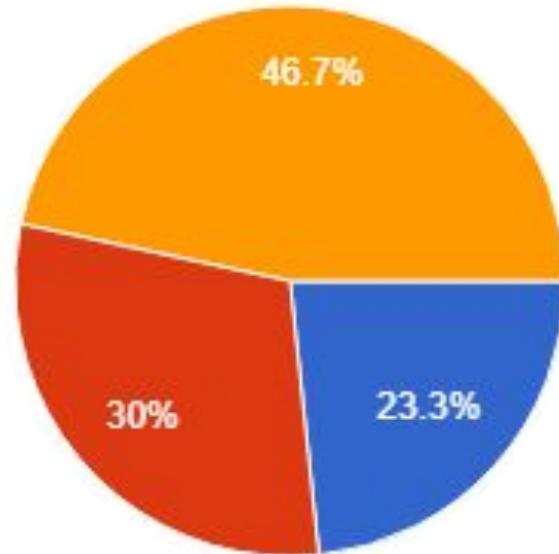
回答者について:あなたは自分をフェミニストだと考えますか。

アメリカ



- はい
- いいえ
- わかりません

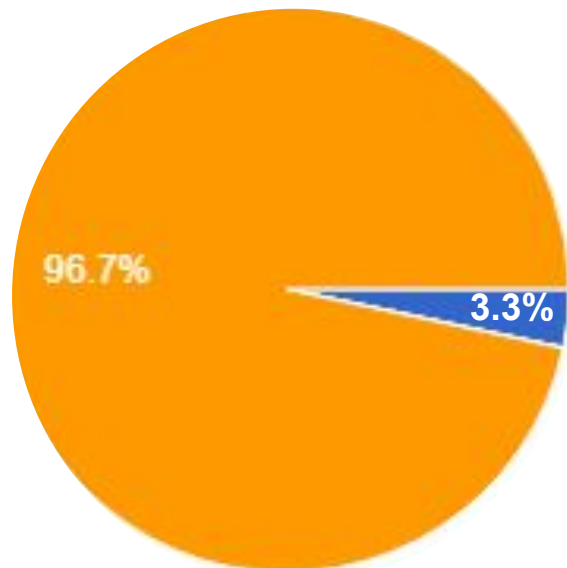
日本



アメリカの女子大生は日本の女子大生の約4倍自分をフェミニストとして識別している

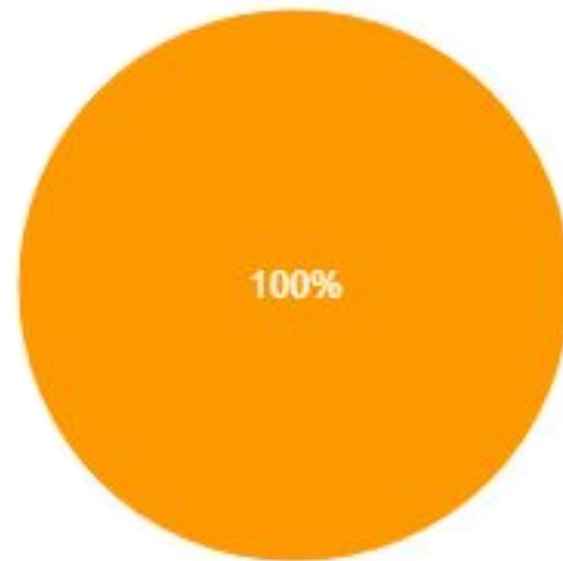
回答者について:フェミニストと呼べる人、又フェミニズムを促進できる人は誰ですか。

アメリカ



- 女性だけ
- 男性だけ
- 誰でも

日本



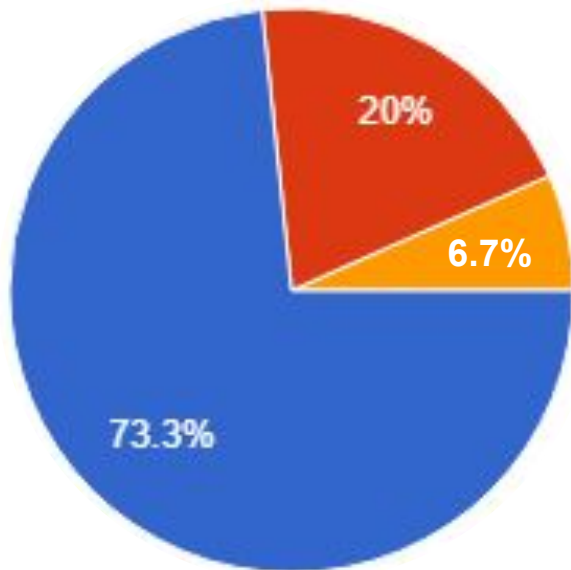
両国の女子大生は、誰もがフェミニストになることができる、あるいはフェミニズムを促進することができることに同意している

研究質問1

**女子大生はフェミニズムについて
どのように認識しているか**

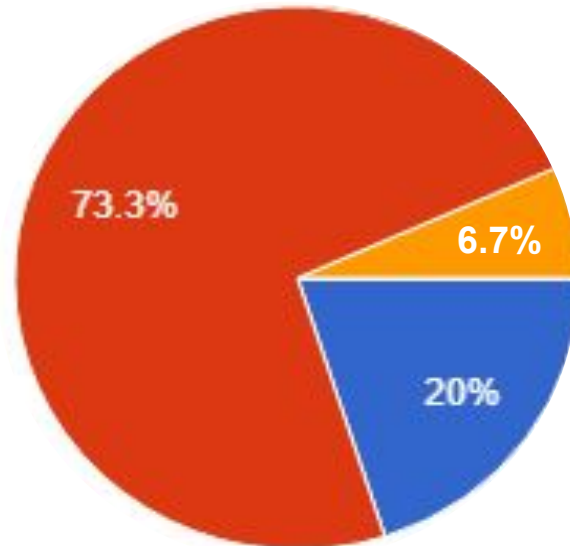
あなたは、フェミニズムが女性の自尊心に対して影響を与えていると思いますか

アメリカ



- 強く賛成
- 多少賛成
- 多少反対
- 強く反対

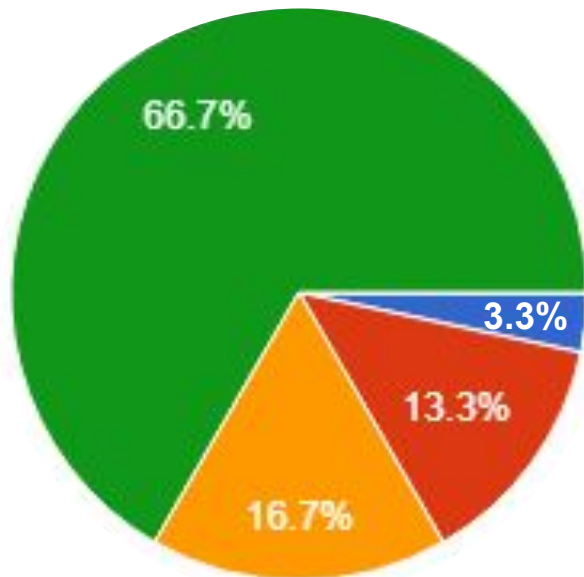
日本



アメリカと日本の女子大生共にフェミニズムが女性の自尊心に対して良い影響を与えていることに同意している

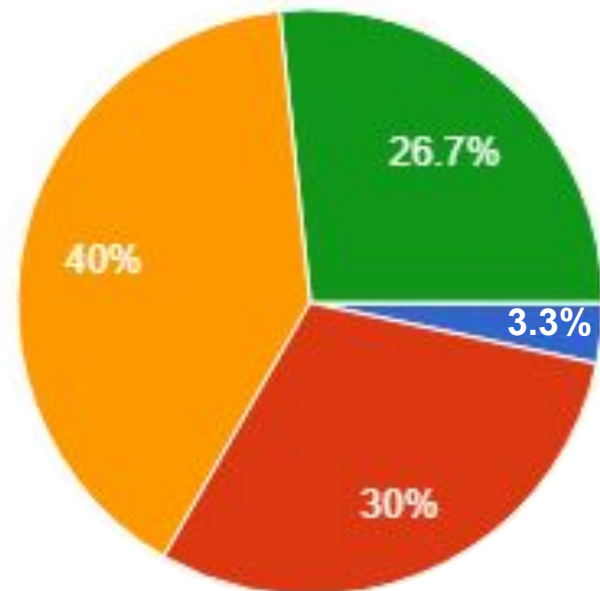
あなたは「フェミニストであること」がどのように認識されていると思いますか

アメリカ



- 非常に肯定的
- 肯定的
- 中立的
- 否定的
- 非常に否定的

日本



日本の学生はフェミニストであることは肯定的でもなく否定的でもないと考え、アメリカの学生は否定的に見られると考えられている

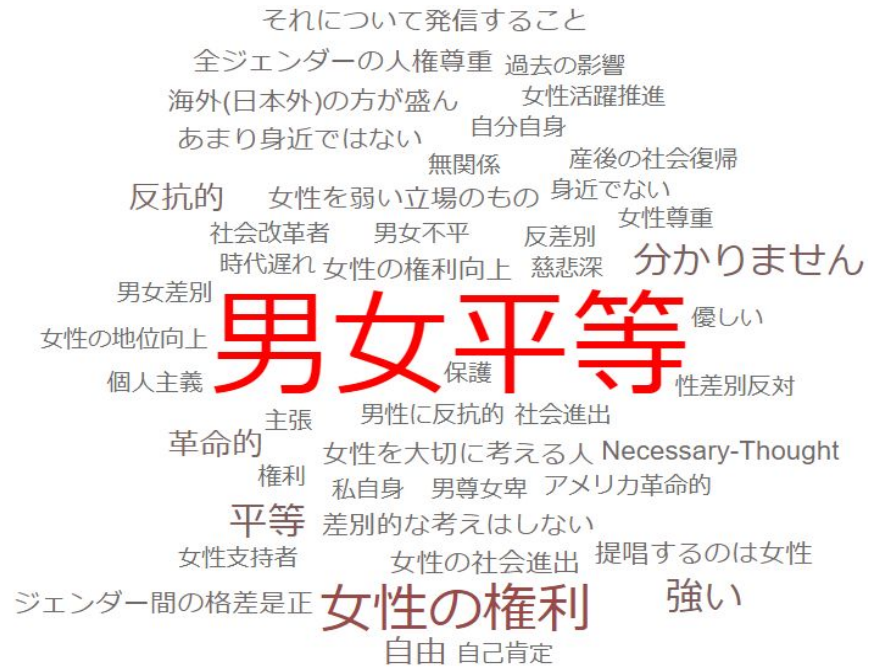
あなたにとって、フェミニストとは何ですか

アメリカ



1. 強い
2. 自主的
3. 平等
4. 反抗的
5. 率直

日本



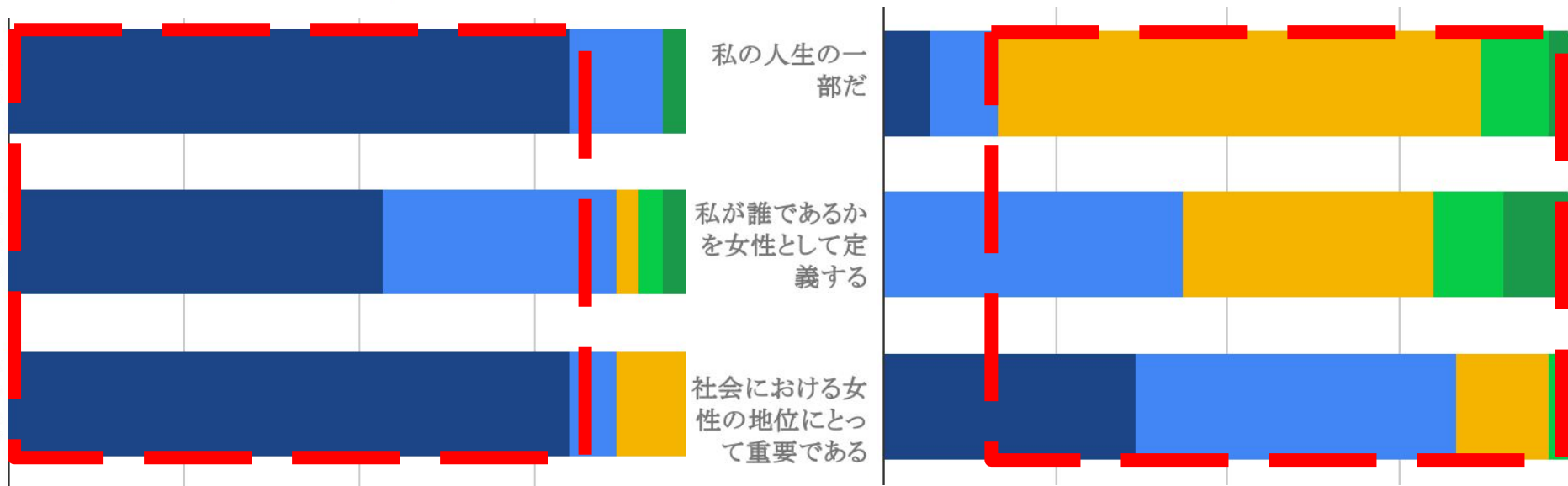
日本人女子大生はフェミニズムは男女平等に関するものとする一方、アメリカ女子大生は個々の女性の自主性と平等を強く主張し女性の不利な状況を変えていこうとい前向きの姿勢が伺われる。

フェミニズムについて以下の項目についてどう思いますか。

アメリカ



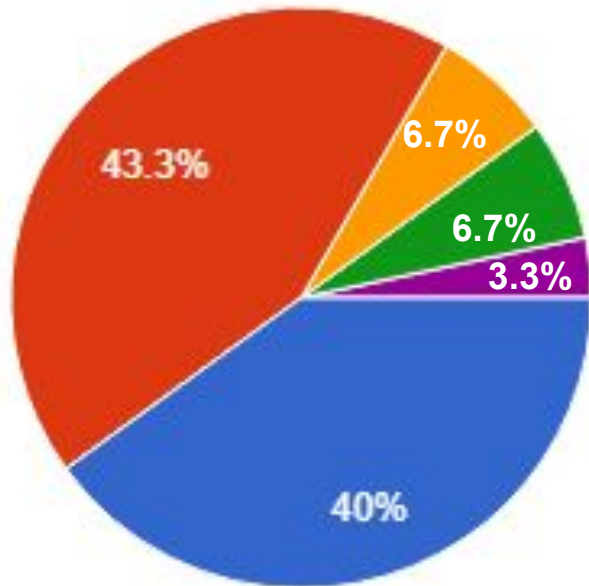
日本



ほとんどのアメリカの女子大生は日本女子大生とは異なり、フェミニズムは人生の一部であると考えている。またアメリカの女子大生の方が、フェミニズムが自分が女性であることを認識すると答えた人が多い。両国の学生はフェミニズムは人社会における女性の立場にとって重要であると答えた。

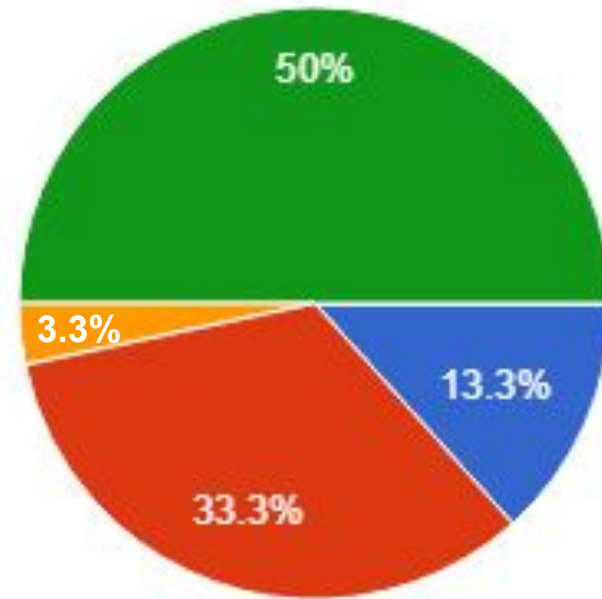
女性の持つ権利の向上について、どの位の頻繁で考えますか

アメリカ



- とても頻繁に考える
- 頻繁に考える
- 分からない
- たまに考える
- 全く考えない

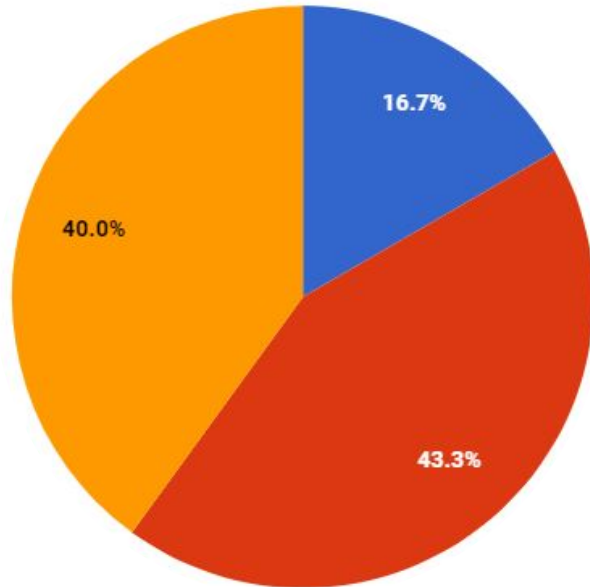
日本



日本人の女子大学生の答えは分かれているが、アメリカ人の大学生は女性の持つ権利向上について頻繁に考えている

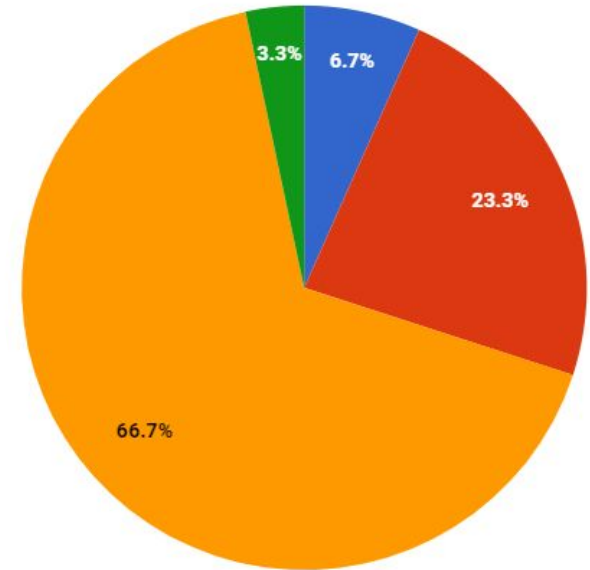
大学卒業後女性が第一優先すべき項目はどれだと思いますか。

アメリカ



- 教育の継続
- 人により異なる
- キャリア
- 恋愛／結婚

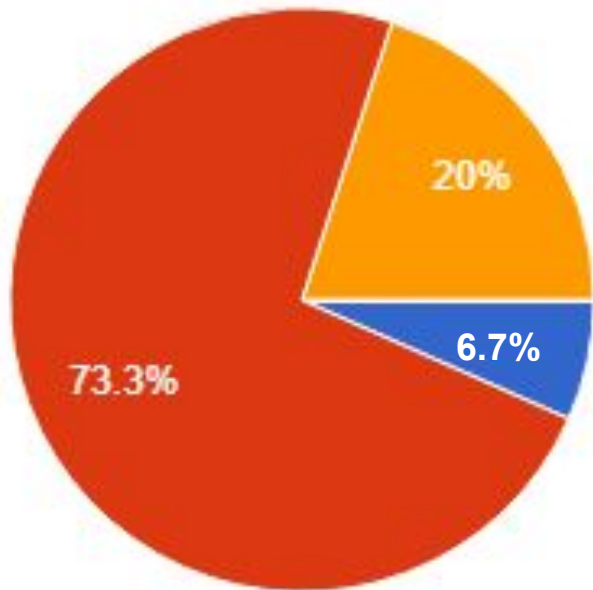
日本



日本の女子大生はキャリアを重視し、アメリカの大学生はキャリアと選択できる自由を重視している

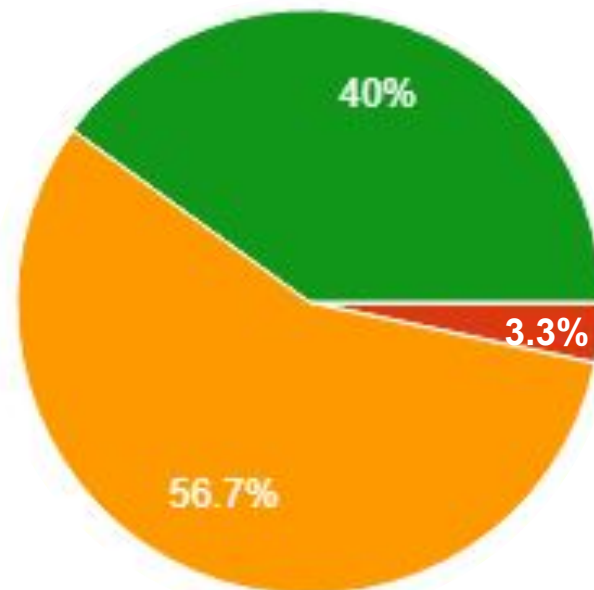
あなたの国では、フェミニスト運動はどのくらい効果がありますか。

アメリカ



- とても効果的
- 効果的
- 分からない
- 効果なし
- 全く効果なし

日本

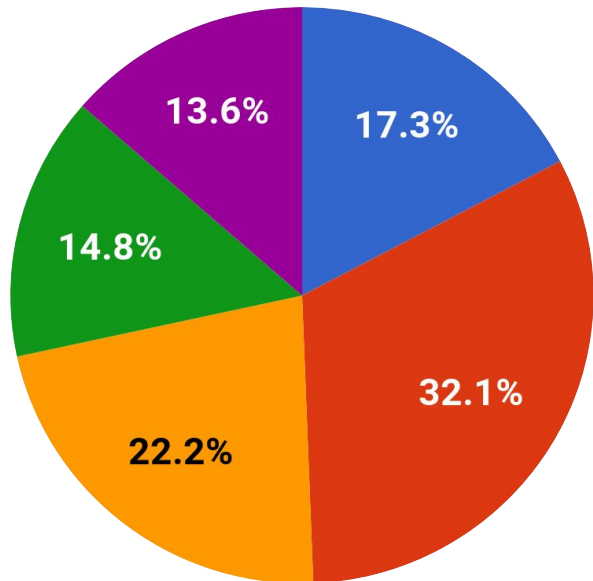


アメリカの73%が効果的だと感じているのに対し、日本の女子大生は、フェミニズムの影響はほとんど中立(56%)または効果がない(40%)と考えている

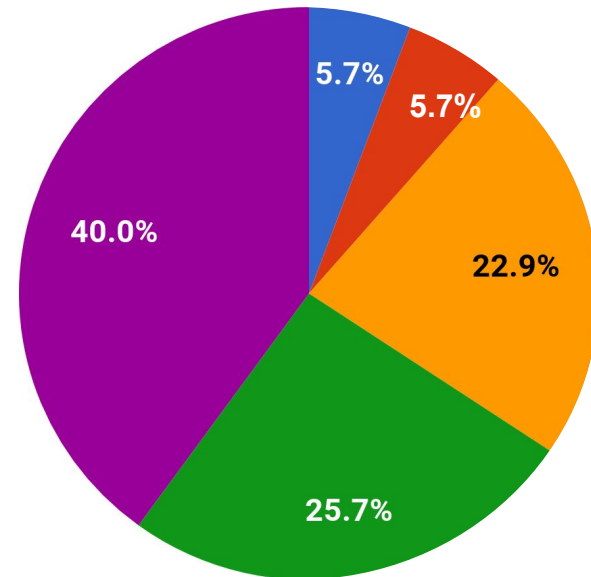
どのようにフェミニズムに参加したいと思いますか。

アメリカ

- 積極的に政治的なイベントや抗議活動に参加する
- 所属するフェミニストの支援組織で活動する
- 地元での活動に参加する
- 女性であることがフェミニストである
- その他



日本



アメリカの学生の大多数は様々な地域の組織に積極的に参加しているが、日本の学生の大多数は地域のスタイルのサポートを好むことがわかった

研究質問1の結果のまとめ

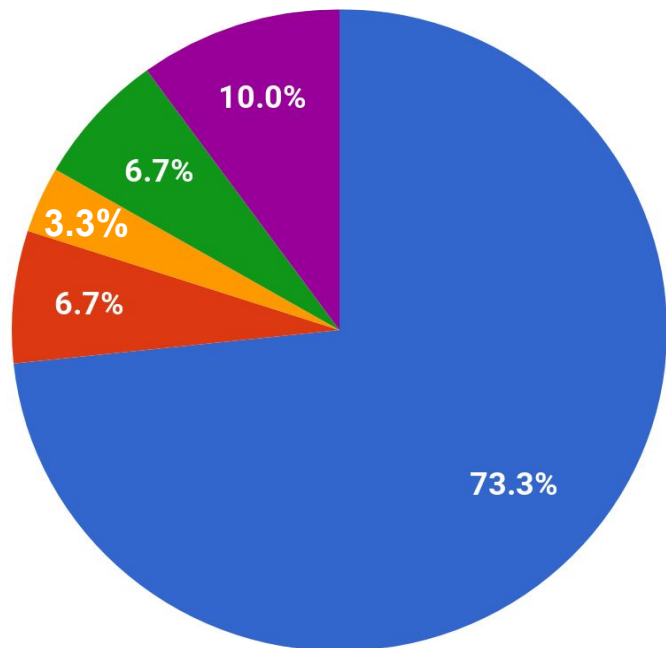
- ★ アメリカの女子大生は、日本の女子大生に比べて自分自身をフェミニストとして識別する可能性はるかに高い
- ★ 日本の女子大生はフェミニストであることは肯定的でも否定的でもないと考える一方で、アメリカの女子大生はフェミニストが否定的な性質を持っていると感じている。
- ★ 大多数の日本の女子大生は、フェミニストの運動が効果的ではないと思っていることに対し、ほとんどのアメリカの女子大生はフェミニスト運動は効果があると感じている。

研究質問2

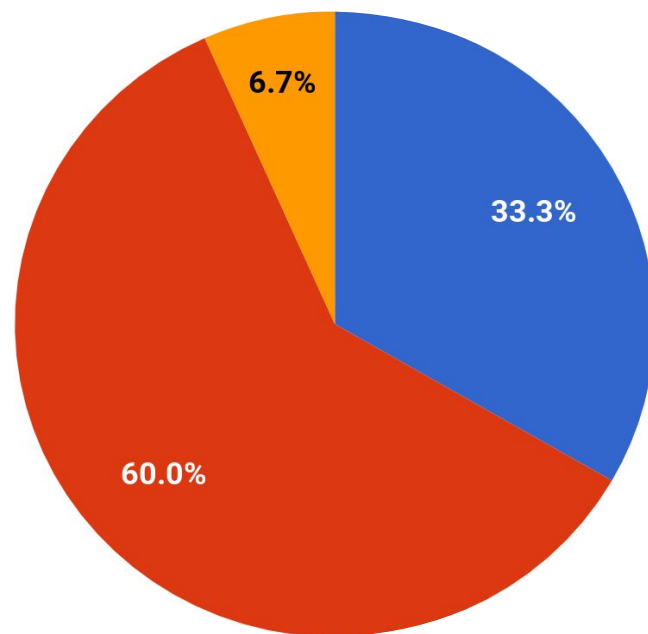
社会で女子大生が直面する平等の問題とは何か

男女の平等には差があると思いますか。

アメリカ



日本



- 強く賛成
- 多少賛成
- 分からない
- 多少反対
- 強く反対

アメリカと日本の女子大生の大多数は男女平等権が異なることに同意している。

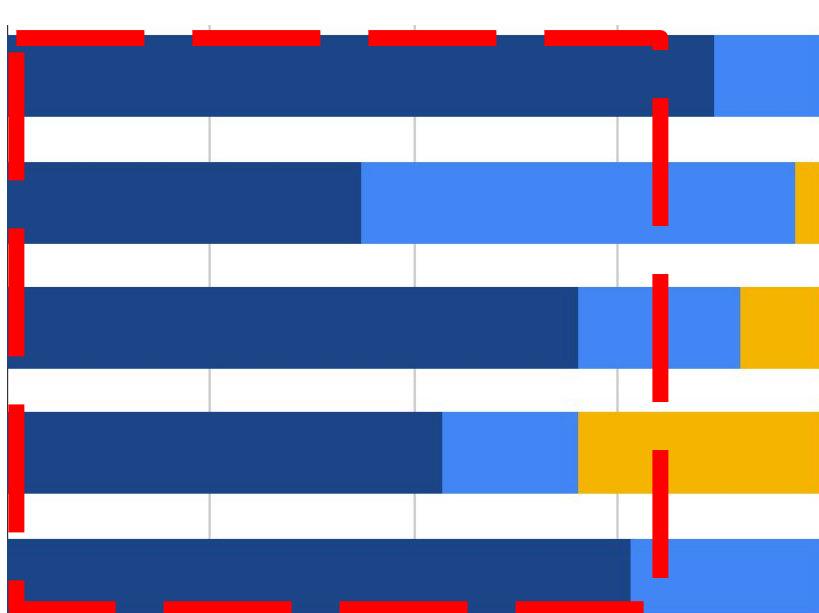
フェミニストの歴史における次のような大きな進歩について、あなたはどの程度知っていますか。

アメリカ

■ よく知っている
■ 知っている

■ 多少知っている
■ 全く知らない

日本



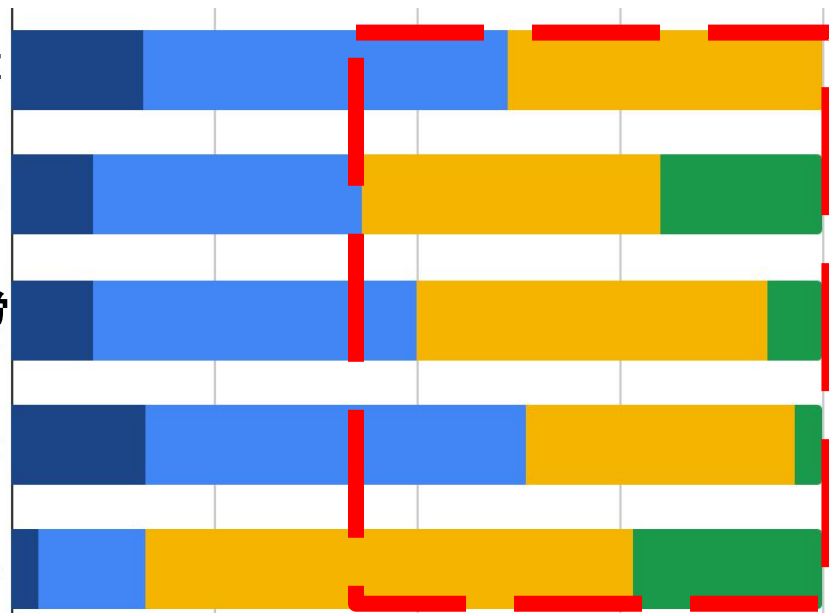
女性の選挙権

政府の代表権

職場権/同一労働同一賃金

育児休暇権

生殖権



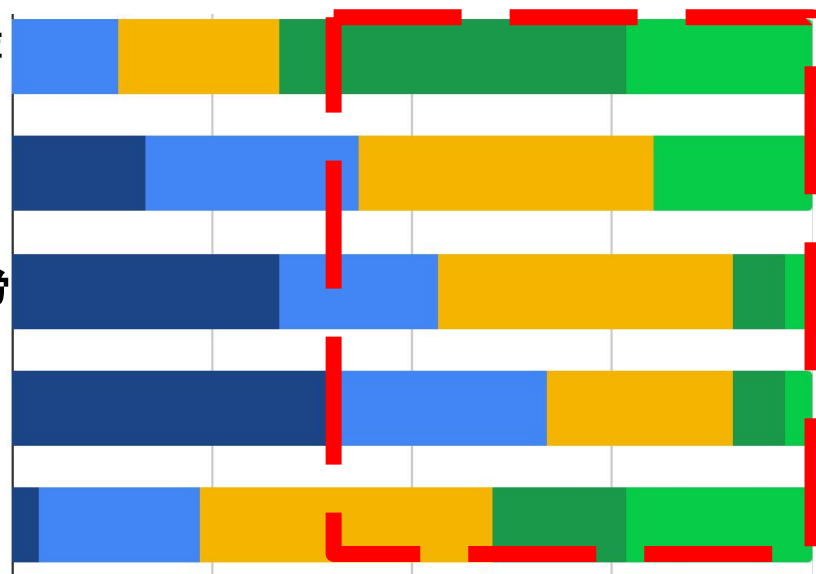
アメリカの大学生と比べると、日本の女子大生の知識はあまりない。

あなたの国では2018年現在、下記の問題が残っていると思いますか。

アメリカ



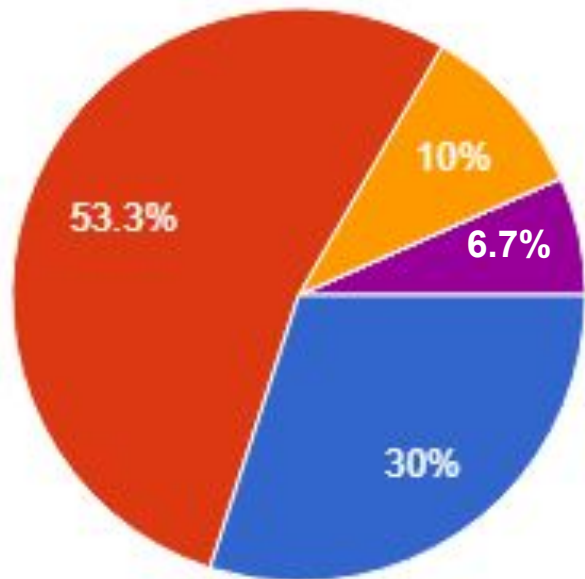
日本



日本の大学生の回答は一定しないが、その反面、アメリカの大学生は選挙権以外、様々な問題が残っていると感じている。

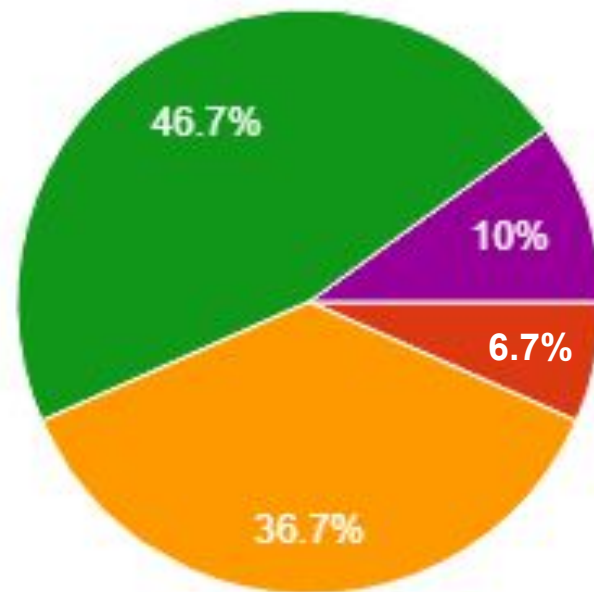
一般的に、フェミニストに関連した事項について、あなたはどの位頻繁に話しますか。

アメリカ



- 毎日
- 毎週
- 毎月
- 年に数回
- 全く

日本



日本の女子大生はフェミニズムについての問題を年に数回話すが、アメリカの学生は毎週あるいは日常での会話で頻繁に話し合っている。

他のフェミニストの問題や男女平等問題などについて興味がありますか

アメリカ

- インターセクショナルリティー
包括性
- LGBT の権利
トランスジェンダー の権利
- 性的暴行
- 男性に対する期待と女性に対する
- 期待が一致するようにする

日本

- 回答するのが難しい
- 社会の中での男性に対する差別的な考えに光を当てて。
- 男女で不揃いなのは仕方ないから無理に平等にしなくても良いと思う。
- なんでもかんでも平等にすることが、同じ権利を持つことではない。

研究質問2の結果のまとめ

- 日本とアメリカの女子大生は、現在でも男女に不平等があると思っている
- 日本の女子大生は、アメリカの女子大生に比べると男女平等に関する進歩の知識が乏しい。その反面、アメリカの女子大生は男女平等に関する知識が豊富で、現在でも様々な問題が残っていると考える。
- 日本人の学生は、アメリカ人の学生に比べて女性の権利について話す機会が非常に少ない。
- アメリカの大学生は男女平等だけではなく、LGBTQも含めて人間としての平等について包含的に考えている。日本の学生は男女平等とは男女を平等にエンパワーする必要があると考えている大学生もいた。

結論と考察

- フェミニズムに関して、日本の女子学生が主に男性と女性の平等に焦点を当てているのは、フェミニスト運動が日本ではあまり効果がないと思っているからではないかと思う。
- フェミニズムの問題は、アメリカでは男女平等の問題を超えLGBTQ等を含めたすべての人の平等に力を入れているが日本ではまだそこまでいっていない。
- カリフォルニアに育ち、男女平等に権利を主張することには当然のことのように思っていたが、日本の女性の意識の低さに驚いた。日本の女子大生が男女平等に対してもっと積極的になるには、幼少の時期から女性だけでなく男性にも平等の重要性を認識させる教育が必要だと思う。

研究の限界点・将来の研究課題

- ★ 少数の回答者のため結果が一般化出来ない
- ★ 将来の研究課題
 - 男性の見解も含めて調査したい。
- ★ この研究では追及しなかった男女平等権利についても調べたい。
 - 性的暴行
 - 人種差別
 - インターセクショナルリティー
 - LGBTの権利

Bibliography

Bailey, M. (2006). More Power to the Pill: The Impact of Contraceptive Freedom on Women's Life Cycle Labor Supply. *The Quarterly Journal of Economics*, 121(1), 289-320. Retrieved from <http://www.jstor.org/stable/25098791>
2. doi:10.2307/1290002

Christensen, K. M. (2012, January 5). Women's Suffrage in Japan in the 20th Century « Women Suffrage and Beyond. Retrieved December 06, 2017, from <http://womensuffrage.org/?p=389>

E. Campbell, David & Wolbrecht, Christina. (2006). See Jane Run: Women Politicians as Role Models for Adolescents. *Journal of Politics*. 68. 233 - 247. 10.1111/j.1468-2508.2006.00402.x.

Equal Pay/Compensation Discrimination. (n.d.). Retrieved February 01, 2018, from <https://www.eeoc.gov/laws/types/equalcompensation.cfm>

Bibliography

Hains, R. C. (2009). Power Feminism, Mediated: Girl Power and the Commercial Politics of Change. *Women's Studies In Communication*, 32(1), 89-113.

History.com Staff. (2010). 19th Amendment. Retrieved December 06, 2017, from <http://www.history.com/topics/womens-history/19th-amendment>

Houvouras, S., & Carter, J. S. (2008). The F Word: College Students' Definitions of a Feminist. *Sociological Forum*, 23(2), 234-256. doi:10.1111/j.1573-7861.2008.00072.x

IPU Archive - Women's Suffrage. (n.d.). Retrieved March 05, 2018, from <http://archive.ipu.org/wmn-e/suffrage.htm>

Lee, J., & Lee, K. (2016). Gendered reactions to women politicians in Japan: The role of media use and political cynicism[PDF]. Keio University.

Bibliography

Goldin, C., & Katz, L. (2002). The Power of the Pill: Oral Contraceptives and Women's Career and Marriage Decisions. *Journal of Political Economy*, 110(4), 730-770. doi:10.1086/340778

Gordon, L., Henry, A., Cobble, D. (2014). *Feminism Unfinished*, 160-3 London: W.W. Norton.

Bartlett, K. (1994). Only Girls Wear Barrettes: Dress and Appearance Standards, Community Norms, and Workplace Equality. *Michigan Law Review*, 92(8), 2541-258

Milestones for Women in American Politics. (n.d.). Retrieved February 01, 2018, from http://www.cawp.rutgers.edu/sample/timeline?field_timelinegroup_tid=317

Proportion of seats held by women in national parliaments (%). (n.d.). Retrieved March 05, 2018, from https://data.worldbank.org/indicator/SG.GEN.PARL.ZS?contextual=default&end=2017&locations=JP-US&start=1990&view=chart&year_high_desc=false

Bibliography

Redford, L., Howell, J. L., Meijs, M. H., & Ratliff, K. A. (2016). Implicit and explicit evaluations of feminist prototypes predict feminist identity and behavior. *Group Processes & Intergroup Relations*, 21(1), 3-18. doi:10.1177/1368430216630193

Swers, M. L. (2002). *The difference women make: the policy impact of women in Congress*, 1-26. Chicago: Univ. of Chicago Press.

Swirsky, J. M., & Angelone, D. (2016). Equality, empowerment, and choice: what does feminism mean to contemporary women?. *Journal Of Gender Studies*, 25(4), 445-460. doi:10.1080/09589236.2015.1008429

The Gender Equality Bureau of the Cabinet Office (2002). *Heisei 14 nenban danjo kyodo sankaku hakusho [FY 2001, Annual report on the state of formation of a gender equal society]*.

Tokyo: Zaimusyou insatsu Kyoku http://www.gender.go.jp/english_contents/about_danjo/lbp/index.html

Bibliography

Title VII of the Civil Rights Act of 1964. (n.d.). Retrieved February 01, 2018, from <https://www.eeoc.gov/laws/statutes/titlevii.cfm>

Vogel, L. (1990). Debating Difference: Feminism, Pregnancy, and the Workplace. *Feminist Studies*, 16(1), 9-32. doi:10.2307/3177954

Women in Elective Office 2018. (n.d.). Retrieved March 05, 2018, from <http://www.cawp.rutgers.edu/women-elective-office-2018>

Women in national parliaments. Retrieved March 05, 2018, from <http://archive.ipu.org/wmn-e/arc/classif010118.htm>